

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970800694		
法人名	株式会社 フレンド		
事業所名	グループホーム ふれんど		
所在地	栃木県 小山市羽川524-1	電話:	0285-20-6211
自己評価作成日	平成25年 7月 15日	評価結果市町村受理日	平成 25年 9月 2日

※事業所の基本情報は

基本情報	
------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成 25年 7月 25日	評価確定(合意)日	平成 25年 8月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> * 清潔感のあるホームであるよう、衛生面での配慮に力を入れています。 * 入居者の方々に季節感を味わっていただき、また定期的に気分転換が図れる目的で外出行事を頻繁に実施しております。 * ご家族様と職員間の信頼関係を大切にしています。 * 入居者の方々がマイペースに穏やかに生活できるような環境づくりに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は羽川地区の静かな住宅街にあり、敷地内にはデイサービスセンター、小規模多機能施設、法人の薬局や周辺には他法人の病院もあり、この一角は住民の安心な地域資源群として認識されている。事業所は創設以来の理念を一貫して実践し、利用者の自立・安心・地域との共生・健康で楽しみな活力のある生活が続けられるように取り組んでいる。隣接のデイサービスセンターで自発的に歩行訓練をしたり、利用者と家族の意見でリハビリマッサージを毎週取り入れ、また元気な利用者はホーム内で役割を担うなど、利用者、家族、職員の連携がみられる。事業所で開催された認知症サポーター研修にはチラシを近隣に配るなど地域住民の参加を促し、参加者からも好評であった。また今後社内研修で生活習慣病など、健康に関する研修にも地域住民の参加を募り、事業所は地域資源であることを意識し、その役割と地域貢献についても積極的に活動を計画している。運営推進会議は所定の回数開催に至らなかったが、幅広い分野からの意見を得るためにも、多方面から地域代表の参加をお願いするなどして、利用者や地域のサービスに貢献しようとしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

平成25年度 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・ホームの理念・指針は、玄関に掲示しております。職員は、ホームの理念を毎朝の朝礼時に確認しながら実践を目指しています。	朝の引き継ぎ時に理念と心得を唱和する事で意識し、管理者も多様な場面で理念に沿って職員を指導し業務につなげている。職員は理念を念頭に業務を振り返り、職員間での話し合いの機会を通して共有しようと努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例の秋祭りでの施設の開放に加えて、地域の方が参加いただける研修会(認知症サポーター養成講座など)を開催し、近隣住民の方々に気兼ねなく来所いただける機会を作っています。	グループホーム、デイサービス、小規模多機能施設が一体となって地域との関係づくりに取り組んでいる。主催の認知症サポーター研修には住民参加をポスティングで知らせ参加者からは好評であった。今後はさらに社内研修にもテーマにより家族や住民の参加を募り、地域への理解に繋げようとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月実施している内部研修を、地域の方々にも参加していただけるようはたらきかけています。今後はより興味を持って参加いただけるような内容を検討していく予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状、委員の方の確保に苦勞し規定の開催回数を実施できていない状況です。今後地域の自治会の役員会に参加させていただき、会議の意義などお伝えしながら、施設を地域の資源として活かしていただけるよう、はたらきかけていく予定です。	開催回数を目標達成計画に掲げたが、運営推進会議委員の事情や異動により規定の開催回数には至らなかった。再度地域の民生委員、自治会、老人会などに福祉事業所について説明し、理解を得て委員の確保が得られるよう努めると同時に、課題によっては多方面への参加依頼を柔軟に検討している。	利用者・家族、地域代表、市、他関係者の出席を得て年6回の開催を期待します。事前に議題を提示し地域の理解と協力を得て、地域の関わりについても話し合い、会議本来の目的である利用者のサービス向上に繋がる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が小山市の認知症施策運営推進会議の委員に就任させていただき、定期的に行政の担当の方への情報提供を実施するようになりました。	市担当の異動もあり、事業所の実情について報・連・相を心掛けている。管理者は認知症サポーターの指導的役割を担うことになり、事業所で行った研修には市職員の参加もあった。市からは運営推進会議の開催について指摘やアドバイスのあるなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の内容としてとりあげ、全職員がその弊害をよく理解し、利用者処遇に活かしています。	認知症研修の中で取り上げ、その弊害についても学んでいる。また職員会議では帰宅願望の利用者の生活歴などから分析し、ベテラン職員のスキルを活かした対応と、家族の積極的な関わりで落ち着いて安心な生活に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項と同様ですが、毎月の内部研修の内容としてとりあげ、職員間において自らの抑止となるよう、普段の処遇を見つめています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に積極的に参加し、理解を深め活用に繋がるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者本人・ご家族を含め十分な説明を行い、サービス内容についてご理解いただいたうえで契約締結しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、クリスマス会を家族会と兼ねた行事として実施して、座談会の形で運営に関しての意見や要望を、気兼ねなく話していただく機会を作っています。	イベント時に家族懇談会を開き意見や要望について話し合っている。また家族の訪問時には個別に話し合い健康や暮らしぶりなど、報告しながら家族の意見や要望を聴いている。利用者同士の関係についても家族からアドバイスを頂き、利用者が互いに心地よく暮らせるようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例職員会議は、現場職員主導の内容で開催し、議題も職員間で事前に話し合っていて決めています。	職員主導で月1回の定例職員会議を行い、職員から利用者の個別ケアについて報告や意見・提案が出されている。行事計画や外出計画、研修参加について職員の意見を反映させ、上位の資格取得など意欲や向上心を引き出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期(6ヶ月)毎に実施している人事考課において、出来る限り職員と対話する時間を作り、個別のモチベーションを把握するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格に応じた研修を会社独自で設け、また外部研修についても積極的に受講を勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の同一サービス事業所毎に主任会議を開催し、現場レベルでの情報交換ができるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の段階では、まずホームの見学からお試しでの宿泊をお勧めしています。その間、本人の話をよく傾聴していくことに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階から、家族の方々とは直接の面談を通して、ていねいなアセスメントを実施し、ニーズの把握に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同一敷地内で運営しているデイサービス・小規模多機能施設と連携を図り、現状のニーズに即したサービス提供ができるよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の1日の流れのなかで、入居者の方ができること(掃除・料理など)をよく検討し、入居者本人がマイペースに穏やかに生活できるようはたらきかけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的に面会時間は自由とさせていただき、ご家族が仕事を終えた後の夜間においてもスムーズに面会にいらしていただくなど、気軽に来所いただける雰囲気づくりに配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の関わりの中から本人のニーズをよく把握し、必要に応じて電話を取り次いだり、また日常的な外出の機会を確保しています。	地元の利用者が多く、買い物などの外出の折には顔馴染みとの挨拶や会話を楽しむ機会を支援している。毎月訪問してくる馴染みの理髪店との会話も楽しみになっている。昔馴染みの大沼公園の四季折々の変化が話題に上がり車で訪れ散策している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係をよく把握し、リビングでの座席の位置など配慮しています。トラブルなどには早い段階で介入させていただき、必要に応じてご家族の協力を仰いでいます。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを修了される理由として、この一年ではすべて他入居施設への入所でした。退居された後もご家族の方々とは年賀状のやりとりなどさせていただき、関係性を継続しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、声かけ・スキンシップを通して常に肯定的に援助しながら入居者本人のニーズの把握に努めています。	利用者の呼びかけにはその場で気持ちに沿えるように対応している。困難な事例については引き継ぎ時や職員会議で話し合い、家族の協力を得て利用者の潜在的な思いを汲み取るようにしている。家族との協力で週1回のマッサージやデイサービスセンターでのリハビリは楽しみになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時にご家族の方々のよく話をさせていただき、ご本人の生活歴の把握をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の援助を通して状態を把握し、協力医の往診の際に報告し、対応の指示を受けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、定期的に全職員で個別のケース会議を開いて、各スタッフの意見を取り入れて作成しています。	月1回のケース会議で、利用者個々の暮らし方の変化や健康状態など、感じている事や予見など実情に沿って、意見を出し合っている。定期的な見直しに加えて随時状況を確認しながら必要に応じての見直しもし、変更時には本人・家族に説明し了承している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は状態を具体的に記入し、その内容は朝夕の職員ミーティング時に申し送りして、情報共有に漏れないように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社内において調剤薬局を運営しているメリットを生かして、内服に関して薬剤師から副作用などの情報をもらい処遇に活かしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出レクの行き先には地域の昔馴染みの場所(公園・商店など)を希望により選定しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族と相談しながら、協力医への連携へとつなげています。疾病によってかかりつけ医との関係を継続される場合もあり、家族の協力を得て受診情報を共有しています。	以前からの疾病により「かかりつけ医」との関係を継続支援し受診結果については家族と共有している。協力医は週1回の往診があり利用者・家族の安心に繋がる事から協力医への変更が多い。診断結果は状況に応じて家族面会時などで報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム所属の看護師はいないので、必要に応じて併設の事業所の看護師に、医療面での相談・助言を依頼しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にもこまめにお見舞い等伺い、ご家族や病院との情報交換に努め、退院に向けての調整をするようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の対応について、事業所としてできる対応を説明しています。実際には協力医との連携を密に図りながら医療機関へ入院するケースがほとんどです。	家族からは終末期のケアについて具体的な希望はないが、事業所で「出来る事・出来ない事」について契約時に説明している。また協力医と連携をとりながら、医療行為の必要な状態や対応について説明し、利用者・家族の意向に沿い連携して医療機関や特養施設などへの支援をしている。	利用者・家族の意識や希望・要望・状況の変化も想定されます。グループホームで利用者が安心して暮らし続けるためにも、不測の事態に備え職員の研修を重ねるなど、対応力向上を図られることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や定期的に消防署の職員の方による救急救命法の講習を開催し、緊急時の実践的な対応について学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	継続的に毎年3事業所合同の火災避難訓練を実施しています。併せて防災関連の物品や非常食の備蓄を行っています。	隣接している施設と合同で年1回火災消防避難訓練を実施した。前年には消防署から指摘があった「火災報知音が隣接の施設にも聞こえるように」との指摘について未達成である。また前年度の目標達成計画でもあり、重要事項説明書に明記されている、年2回(夜間想定)の避難訓練及び地域との連携についても、今年度の継続課題としている。	地震、火災などの災害を想定し利用者・職員が安全に避難するために繰返し(年2回以上)避難訓練を行われることを期待します。訓練計画書に止まらず、訓練後の気づきや、反省・改善について話し合い、さらに地域住民の協力を促し、実践的な訓練になるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人のペースを最優先しながら、援助しています。決め事は極力作らず、思い思いに過ごしていただけるよう職員は意識しています。	日中はリビングで手芸、新聞、書き物、手伝いなど思い思いに過ごしている。出来る人には洗濯物取り込みなどの役割を持っている人もいる。職員は一人ひとり自然な暮らし方を尊重し、見守り・声掛けながら誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの思いや希望を気兼ねなく表すことができるよう、関わり方を個別に変えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースの時間軸を優先に、臨機応変な対応ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は可能な限りご自分で選んでいただいています。また毎月の近隣理髪店の出張サービスについても、利用率が上がっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理のない範囲での食事の準備や後片付けに協力いただいています。また、定期的に外食行事を実施し食べる楽しみにつなげています。	食材はカロリー計算され、職員が利用者の咀嚼力に合わせて調理している。職員は利用者一人ひとりのペースを見守りながら、時に声掛けしている。月に1度利用者の希望を取り入れ、好きな外食を楽しむなどの支援もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取については入居者によっては摂取量をチェックさせていただき、必要量を確保しています。栄養状態に関しては、協力医により3ヶ月に一度の採血を行い、把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアの他、希望される入居者によっては、定期的に訪問歯科診療を利用されたりと、ニーズに対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中については全員トイレでの排泄をさせています。排泄チェック表を活用し、個別の排泄パターンの把握に努めています。	排泄パターン表を記録し参考にしているが、利用者の力に合わせて全員トイレでの自立排泄を支援している。管理者・職員は、排泄の失敗などであっても、健康状態の下降に繋がらないよう配慮し、脚力の低下を抑えるべくトイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医に相談しながら、予防と対策に取り組んでいます。個別の対応としては、食事内容の形態など咀嚼の状態により工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況などに応じて入浴の形態(機械浴・シャワー浴など)を工夫したり、時間なども柔軟に対応しています。	入浴は体力の消耗に配慮し、利用者個々の健康状態に合わせて2～3日に一度の入浴(個浴・機械浴・シャワー浴)で清潔を支援している。入浴剤を毎回使用し、季節の節目には(菖蒲湯や柚子湯)昔からの楽しみを取り入れ支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のお昼寝なども基本的に自由ですが、逆に昼夜逆転など睡眠のサイクルが乱れやすい方には、日中の散歩やテレビ視聴などへ積極的に誘うなど、夜間に入眠しやすくなる環境づくりに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェック体制を増やして誤薬の防止に努めるとともに、薬剤師との連携を密に図りながら、状態の変化に対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人的に希望される方には、新聞を購読したり、外部の専門的なリハビリを利用して身体状況の維持に努めたりと、様々なニーズに対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な近所周辺の散歩にはその都度希望に対応している。加えて毎月の外食やドライブなど入居者の希望をよく聞きながら実施しています。	暑さ寒さなどの気候や天候を考慮して、一人ひとりの体調に配慮しながら、事業所周辺や駐車場周辺の散歩など支援している。近くの大沼公園や普段行けない尼寺の桜、大平のアジサイ、野木町のひまわり見学など、ドライブや外食など利用者の楽しみな外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物レクを定期的実施し、可能な限りお金を使うという行為を継続しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人やご家族の希望に応じて積極的に支援しています。特に入居者の不安を取り除く意味で効果が高いと考えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節的な採光に配慮して、夏にはよしずやすだれを大いに活用して、季節感にもつなげています。日中はリビングで過ごされる時間が多く、そのスペースの温度管理など環境整備には特に配慮しています。	東向きリビングに接する和室を、膝の弱い利用者の為に改造してテーブルと椅子を置き好評である。柔らかい採光と温度湿度にも配慮している。日中、集うリビングは職員が目配り気配りが行き届き、台所の音や調理の香りも家庭的な雰囲気を感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者個々人が気兼ねなく過ごせるよう職員が上手く間に入りコミュニケーションを図っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れた家具や小物を持ち込んでいただき、本人が少しでも安心して暮らせるようにご家族にも協力いただいています。	各部屋の収納スペースには備え付けの奥行のある整理箆笥があり、地震などで倒れる心配が軽減されている。箆笥の上には利用者の大事な孫や伴侶の写真など大切な小物や日用品が飾られている。各部屋の入り口には携帯消火器が備えられ安心にも繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体状況を職員間でよく話し合い、居室の配置を決定しています。その際、入居者本人やご家族に十分な説明をしてご理解いただいています。		